

高等学校学習指導要領との関連性や接続性

建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部での学修と、高等学校における教科等（現行の学習指導要領による標準的な教科等と科目名称を記しています）との関連性や接続性について以下に示します。

なお、普通科でも特色あるコースやクラスなどで学習している場合、専門教育を主とする学科や総合学科などの場合、現行の高校3年生とは異なる学習指導要領を適用している場合などにおいては、それら学習内容を下表に概ね当てはめながら考察してください。

学習指導要領 令和4(2022)年度 高校3年生の場合		入学前に学習しておくことが望ましい内容／教科等との関連性や接続性
教科等	科目	
国語	国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B	建築都市デザイン学部の学修では、文献や資料を読み解いたり、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーションを行う機会が多くあり、文章の読解力や表現方法として日本語を駆使できる能力を必要とします。 そのため、「国語」教科においては、必修科目「国語総合」のみならず、複数学年にわたり 継続的に複数の科目を履修 していることが望まれます。
地理歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	建築都市デザイン学部の学修では、人類の様々な営みの歴史を踏まえ、多様な地域文化を理解することが求められます。また、社会活動や地理地形と社会基盤の関わり方を理解して、地球的視点から多面的に物事を考える能力が求められます。 そのため、「地理歴史」教科においては、地理や歴史への関心を高めながら、複数学年にわたり 継続的に複数の科目を履修 していることが望まれます。
公民	現代社会 倫理 政治・経済	建築都市デザイン学部の学修では、設計や技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、社会に対して負っている責任を理解することが求められます。また、絶え間なく変化する社会から求められるものを常に問い、社会の持続的発展に寄与する姿勢が望まれます。 そのため、「公民」教科の 学びは大切 であり、履修した科目については内容を深く理解していることが望まれます。
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学活用	建築都市デザイン学部の学修では、理工学の専門分野の基礎として「微分積分学」「線形代数学」「ベクトル解析学」「フーリエ解析学」などの科目を必修または選択科目として履修します。 これらの学修のためにも、「数学」教科はとて重要であり、「 数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」のすべてを履修 していることが望まれます。
理科	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学 理科課題研究	建築都市デザイン学部の学修では、安全で快適な都市を構築するために、科学に関する全般的な知識が求められます。 そうした学修の基礎および応用として、物理・化学・生物・地学の科目を講義や実験として必修または選択科目として履修します。 これらの学修のためにも、「理科」教科はとて重要であり、 特に「物理」を履修 していることが望まれます。また、科学に関する全般的な知識として、「化学」「生物」「地学」から複教科目を履修していることが望まれます。
保健体育	体育 保健	建築都市デザイン学部の学修を進めるうえでは、「保健体育」教科を通じて、心と体を一体としてとらえ、自己の状況に応じて体力の向上を図り、 健康を適切に管理する資質や能力 を身につけていることが望まれます。
芸術	音楽Ⅰ～Ⅲ 美術Ⅰ～Ⅲ 工芸Ⅰ～Ⅲ 書道Ⅰ～Ⅲ	建築都市デザイン学部の学修を進めるうえでは、芸術に対して体感と言語による理解が求められます。そして、様々な創造的な行為に対して理解があり、その価値を尊重し、人間としての喜びと学びの営みを感じることができると望まれます。 そのため、「芸術」教科においては、 複数の科目を履修 して芸術の諸能力を伸ばしていることが望まれます。
外国語	コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	建築都市デザイン学部の学修を進めるうえでは、多様性や異文化に理解があることが望まれ、言語を問わずに協同で課題を解決する能力が求められます。 また、建築都市デザイン学部の学修では、外国語科目として英語を中心に8単位を修得します。 これらの学修のためにも、「外国語」教科の、特に「英語」は重要であり、必修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」のみならず、 3学年にわたり継続的に複数の科目を履修 していることが望まれます。
家庭	家庭基礎 家庭総合 生活デザイン	建築都市デザイン学部の学修を進めるうえでは、「家庭」教科を通じて、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を体得し、 建築都市デザイン学部の学修全般にも有効な資質や能力 として身につけていることが望まれます。
情報	社会と情報 情報の科学	建築都市デザイン学部では、現代社会における情報の役割を理解し、情報倫理を身に付け、情報デバイスの使い方の基本を習得することが求められます。 そのため、「 情報 」教科は 重要 であり、科目の履修とともに情報技術への関心を高めておくことが望まれます。
総合的な学習の時間		建築都市デザイン学部の学修を進めるうえでは、「総合的な学習の時間」を通じて、横断的・総合的な学習や探究的な学習を経験することで、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、協働的な態度とともに、 よりよく問題を解決する資質や能力を身につけている ことが望まれます。